# The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 19 | Issue 3 | March 2016


## In this issue...


▶02...創立者奨学金
▶03...Future Horizonsｽｶﾗｼｯﾌﾟﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
▶05...G4リサイクル楽器
▶07...K3の資金調達
▶09...Art in All of Us
▶10...KISTでの演劇集中ワークショップ
▶11...セカンダリー「名誉の壁」
▶12, 13...Artscape 2016
▶14...ミドルスクールBrain Bowl感想
▶15...児童労働に関する意識啓発
▶18...G12 DP経済クラスの遠足
▶27...KISTサマープログラム2016


「子供たちには愛情が必要です。愛情を受け取るにふさわしくない時にはなおさらです。」
—Harold S. Hulbert

## 学校長より...

KISTコミュニティの皆様、

私も、もう若くはないということなのかもしれませんが、年々時が早く過ぎていく様に感じます。–もう春がすぐそこまで来ていて、2016-2017年度も終わりに近づいているというのが信じられません。今から、6月までにはたくさんのイベントが目白押しですので、今年度の後半もあっという間に過ぎていってしまう事でしょう。

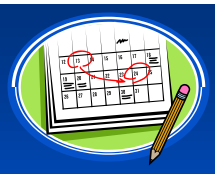
まずは、Sakamoto家の皆様と、KISTコミュニティアソシエーションの皆様のNew Year's Partyでのご親切とサポートに感謝いたします。このKIST恒例のイベントは、コミュニティの皆さんと日本文化を体験できる貴重な機会であり、生徒もスタッフも毎年非常に楽しみにしています。また、毎年ますます盛大に立派なものになりつつあるイベントに、KISTコミュニティアソシエーションのご協力で、図書チームが企画・運営しているWorld Cultures Dayがあります。今年は非常に良いお天気にも恵まれ、KIST生やスタッフは様々な民族衣装や踊り、食べ物やその他の催しを通して様々な文化を楽しみながら体験することが出来ました。今年は深川小学校の生徒さんの参加もあり、更に楽しいイベントとなりました。より異文化への理解を深めるために開催されるこの特別イベントに参加し、またサポートしてくださった皆様に感謝いたします。

また、皆様は10年生が学習の成果を発表したMYP Personal Project Exhibitionにお越しくださいましたでしょうか。Personal ProjectはMYPの集大成となる課題であり、生徒達のDPの課題論文への準備ともなる貴重な経験です。10年生全員がこの将来への指標となる課題を達成したことをお祝いします。皆さんは将来のDPの成功への一歩を既に踏み出しています。Mr Whiteを始め、10年生のPersonal Projectをサポートしてくださった皆さんに大きな感謝を奉げます。 また、10年生の保護者の皆様にも、お子さんの学習をサポートしてくださいましたことに感謝申し上げます。

Personal Projectが終了した今、10年生たちはDPの開始に向けて真剣に卒業後の進路を検討し、DPで学習するコースを選択しなければなりません。毎年、美術がDP生に人気のコースですが、この美術に関して非常に重要なイベント、DP Art Exhibition（DP美術展示会）が近づいています。

次のページに続く

### Dates to Remember



**March 2016**
**16** (G2-G3) Mathematics diagnostic testing
**18** (G1-G12) Clubs program ends / (Nu-G5) LEAP classes end
**21** Student-led conferences
**21** Spring university fair
**23** Last day of quarter 3
**24** (G9-G12) High school SRC dance
**26-Apr 3** Spring break

**April 2016**
**4** School resumes for all students
**4** LEAP classes resume this week
**5** (G1-G12) Clubs program resumes
**11** School photographs (for new and absent students)
**20** (G7-G11) Math field day (Hosted @Zama)
**22** (G12) Last day of classes
**25-29** (G12) DP study week (G12 teachers available)
**29** School day
**29** (G5) PYP exhibition
**29** (G10) DP subject options afternoon for parents and students

**May 2016**
**Apr 30-May 8** Golden Week vacation
**2-20** (G12) DP examinations

KIST is an IB World School
PYP | MYP | DP

前ページの続き

昨年のExhibitionは過去最大の規模のものでしたが、今年もコミュニティの皆様にKIST DP生の美術的才能をご堪能いただけるまたとない機会をご提供できるものと確信しています。毎年このイベントのために多くの時間と労力を奉げてくださっているMrs Justice に感謝します！ 4月8日のイベント当日に多くの皆様がお越しくださることを願っています。

数週間前に開かれたPYP Exhibition説明会では、多くの熱心な保護者の皆様にご出席いただけたことをうれしく思いました。MPRは保護者の皆さんと生徒達でいっぱいになり、PYPの最終ユニットに臨む生徒達とその保護者の皆さんの前向きな期待と同時に僅かな不安が感じ取れました。生徒達は順調に10週間の旅路に漕ぎ出しており、私と同様に、皆さんも4月29日に体育館に展示される成果物を楽しみにしていらっしゃることと思います。5年生の努力の結晶をPYP Exhibitionで見ることが出来るのを今から楽しみにしています － 保護者の皆様のご協力にも感謝いたします。また、様々な問題に取り組む生徒達を熱心に導いてくれた、Mr Archibald、Mr Grant、そしてMs Parkinsonにも感謝します。

これから年度末まで様々な行事が予定されていることもあり、KISTにとって春はとても忙しい季節です。また春は12年生が3月の模擬試験、そして5月のDP試験「本番」に向けて最終的な調整に入る季節でもあります。しかし、1月の模擬試験の結果から、私はすでに今年も12年生が大きな成功を勝ち取ると確信しています。12年生の皆さん －KISTコミュニティ全員が皆さんの順調な学習と試験での健闘を応援していることを忘れないでください。

皆さんが今号の*The Comet* を楽しんで下さる事を願っています。また、これから数多く開かれるイベントで皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

Sincerely,

**Jeffrey Jones**
Head of School

# 創立者奨学金

今年度の**KIST Study Scholarships**（就学奨学金）の受賞者が2015年12月18日、金曜日のセカンダリー集会で発表されました。この奨学金は、ミッション、ビジョン、信条に沿い、学校の精神を体現することで、学校に顕著な貢献をした生徒に与えられます。以下4名の奨学金受賞者を心から祝福します。

## KIST 就学奨学金

### Silver Award

**Jiaying**
(G12A)

### Bronze Awards

**Aska**
(G10A)

**Hana**
(G11B)

**Motoi**
(G12B)

# 理事長よりご挨拶

## Future Horizons Scholarship Program（外部生徒向け奨学金制度）導入について

KISTでは、次世代のリーダーとなる資質を持つと思われる、卓越した学力と能力を有し、かつ人格的にも優れていることを証明しながらも、経済的な事情により、質の高い国際教育を受けることが出来ない国内外の子どもたちを対象に、Future Horizons Scholarship Program（フューチャー　ホライゾン　スカラシップ　プログラム：若者の未来を拓くための奨学金制度）を導入しました。企業、個人事業主、並びに個人の皆様から費用の一部をご支援頂く、外部の生徒対象（Grade 10、11）の奨学金制度です。

KISTは、将来グローバル社会で活躍するために必要な知識とスキルを高いレベルで身に付けることができることで、世界的に高い評価を受けている国際バカロレア（IB）から認可を得て、IBのプログラムを幼稚園から高校まで提供している、東京エリアで唯一の学校です（2016年1月現在）。高校最後の2年間で履修するIBのディプロマプログラム終了時には、世界中の大学への入学資格となる世界共通試験が毎年実施され、2015年5月に行われた試験には、138か国2,437校141,828人が参加しました。すでにご案内しましたようにKISTはその世界共通試験において他校と差をつけ日本でトップの成績を収めています。

非常に優秀な生徒が多数在籍する当校の特色は、アメリカのプリンストン大学やスタンフォード大学、日本の東京大学や早稲田大学、韓国のソウル大学など各国のトップレベルの大学から学費一部もしくは全額免除（いずれも返済不要）となる奨学金付きで合格する生徒が多いことです。

KISTでは、優秀な生徒をサポートするために在校生向けに様々な奨学金制度を設けておりますが、上記の実績を踏まえて、今回グローバル社会への貢献として、この奨学金制度を設けました。この奨学金制度により外部から優秀な生徒を受け入れることで、一人でも多くの子供に光を与え、更には彼らからKISTの生徒が良い刺激を受け、人格的、学問的にさらに向上し、共にKISTのミッションにある「将来グローバル社会に貢献する優秀な人材になる」ことを心から願っています。

この件に関して心から皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

Future Horizons Scholarship Program詳細につきましてはKISTウエブサイトをご参照下さい。

**Yoshishige Komaki**
Board President

Future Horizons Scholarship Programへのご寄付をご検討いただける企業、団体、個人の皆様向けの英語、又は日本語のパンフレットを、オフィスにてご用意しております。

# エレメンタリースクールニュース

## 国際理解

私は毎年World Cultures Dayを楽しみにしています。このイベントは学校コミュニティの文化的多様性を祝い、生徒達自身の背景や、自分自身、自分がどこから来たのか、などを見つめなおすための機会を提供してくれます。Educational Leadershipという雑誌に掲載されている「Beyond Food, Flags and Festivals」というすばらしい記事を最近読み返したのですが、読みながら、私はKISTで開催されているこの恒例イベントに思いを馳せていました。この記事によると、前IB事務局長George Walkerの「国際教育は単に5つの"F"、food（食べ物）、festivals（お祭り）、famous people（有名人）、fashion（衣装）、そしてflags（国旗）を超えたものでなくてはならない」（Skelton, M., Wigford, A., Harper, P., & Reeves, G., 2002）という指摘は正しいものであるということでした。記事を読みながら、私はKISTのWorld Cultures Day のイベントの内容も再検討しなければならないのかと自問していました。そして更に読み進めるうち、私はKISTでの毎日の活動に、単なる恒例行事の枠を超えた国際理解の精神が、どれだけ組み込まれているかに気付かされました。

世界中の子供たちにとって、交通、エネルギー、家庭や政府について学ぶことはごく当たり前のことです。私たちは探求単元を通してこれらの内容を国際的な異なる視点から学んでいきます。Niki Singh (2002) が自身の"Becoming international" という記事で指摘するように、それぞれの単元は「真に地球規模で、知る価値のある、意義深い中心的な考えを一行に凝縮したもの」から始まります。だからこそ「世界中どの学校でも学ぶ価値がある」(p 57）のです。これら中心となる考えによって、私たちの探求は教室や各国の境界を越えたものになるのです。

World Cultures Dayはコミュニティの多様性を祝うまたとない機会ですが、KISTの国際理解は単にここでの祝祭にとどまりません。KISTのカリキュラムや教員による指導は国際的な問題に関して生徒達がより良く理解し、表層の知識にとどまらず、更に奥深い考察をするための貴重な学習体験を提供しています。

次にお子さんが新しい単元について皆様に楽しげにご報告するときには、是非皆様もその単元の、地球規模での意義や国際的な観点についてご一緒に考えて頂けたらと思います。

Happy learning!

Kevin Yoshihara
**Elementary School Principal**

Notes:
Singh, N. (2002). Becoming international. *Educational Leadership, 60*(2), 56-60.
Skelton, M., Wigford, A., Harper, P., & Reeves, G. (2002). Beyond food, festivals, and flags. *Educational Leadership, 60*(2), 52-55.

## Ms Ashley、さようなら!

昨年の9月にKISTはマレーシアから初の教育実習生、Ms Ashley Chinをお迎えしました。それから6ヶ月間、Ms Ashleyはエレメンタリーの生徒達を熱心にサポートしてくださいましたが、先日、エレメンタリー教師となるのに必要な残りの単位取得のため、マレーシアに帰国されました。

Ms Ashley がいらっしゃらなくなって寂しいですが、KISTのためにしてくださった全てのことに感謝しています。Ms Ashleyの学生生活が実り多いものであることをお祈りしています。そして、また是非KISTに遊びにいらしてください！

**REMINDER**
**Maths diagnostic testing (G4-10)**
**May 30, 2016**

## 無料の英国数学教材

以下の無料ウェブサイトに登録して、1000以上のKey Stage 3や、GCSE数学の教材やビデオにアクセスしましょう。セカンダリースクールの診断テスト準備や復習に最適の教材があります！

http://mathswebsite.com

このウェブサイトを作った教員についてお知りになりたい方はここをクリックしてください。彼は100万ドルの賞金が与えられる教育賞の候補者でもあります！

# PYPニュース

## センス・オブ・ワンダー(不思議を感じ、それを楽しむ感性について)

真の「探求型学習」の要件の一つに、生徒の中にある探究心を育むために、教師は物事を不思議に思う感性を発達させるべく指導を行うことが求められます。この根底には、子供たちは自身の好奇心が刺激された場合、より深く学ぶことを求める、という考えがあります。

教師たちは日々、生徒の中の探究心に火をつける事に力を尽くしています。真に理解を希求する心がなければ、学習は単に退屈と無気力の実現となってしまうでしょう。

より現実的で、実生活に即した感動を生むためのプレッシャーを経験した者として、「生涯学習・生きるために学ぶ」ということが授業に与える価値の重要性を実感しています。授業や課題を、生徒にとって単にポートフォリオに入れた段階で終わりになる一過性のものや、重荷にしてしまうか否かは、教師が生徒と同じ気持ちで課題に取り組んでいるかによって変わります。

物事を不思議に思う気持ちなくして、生徒も、そして教師も世界の複雑さや、特別さについて知ることは出来ないでしょう。教育者として、そして生徒としても、日々に生活の中に不思議を見つけ、そして楽しむことを取り入れ、より充実した時をお互いにすごしたいものです。

**Clay M. Bradley**
PYP Coordinator

> 「子供の目には、世界はたった7つの不思議で構成されているのではない。700万の不思議に満ちているのだ」
> —Walt Streightiff

# G4リサイクル楽器

4年生は、現在の探求単元に沿って、リサイクル資源を使った楽器の製作を行い、それぞれの材料による音質・音響の違いなどについて探求しました。生徒達はペットボトル、空き缶、輪ゴム、ダンボールやその他の廃棄資材を使って、"Orchestar"、"Guitdrum" や "Shakey Shake"などの創造的な楽器を作りました。それぞれの楽器がどのように作られたのかについて発表をした後で、生徒達は自分の楽器を使った合奏を行いました。私たちのReally Rubbish Orchestraをお見逃しなく！

**Robert Collins**
PYP Music Teacher

# K1輸送についての誘引活動と探求

新しい単元「私たちはどのように自身を管理しているか」の一部として、輸送の種類について生徒達をの**興味を引くような**活動を計画しました。生徒達がこの単元について考えるようになるために、教室の床一面にブルーシートを敷き、「これは何だと思う?」「青くて大きな場所はどこ?」と質問してみました。Misha は、「お空は青い」と答えてくれました。Kei は、「地図は青い」と答えました。そして多くの生徒達は「水は青い」と一斉に答えました。ブルーシートが海を表していると話した上で、ブルーシートの反対側に小さな島を配置し、その島をハワイと仮定しました。その後、生徒達は「ハワイにはどうやって行けばいい?」という質問に答えるため、に思考力を発揮しました。この問題に答えるため、生徒達は自分の出すべき答えについてじっくりと考えました。生徒達はティッシュの箱を輸送手段とみなし、それぞれが考えたハワイに行くための方法について説明しました。生徒達は自身が選択した輸送手段が空路なのか海路なのか、早いのか、遅いのか、そして騒音を発生させるのかについて考えました。また、生徒達は、自身が選択した方法を説明し、演じることで失敗を恐れない挑戦者であることを証明しました。

また、K1の生徒達は実際にKIPSのお友達も訪問しました。KISTから森下駅まで歩き、浜町まで電車に乗り、そこから徒歩でKIPSに到着しました。KIPSではグループ活動に参加し、おやつを一緒に食べ、校内を探検しました。ダンスと音楽の先生方にもお会いし、徒歩と電車でKISTに帰るまで踊ったり、音楽を聞いたりして楽しみました。生徒達はクラスとして始めて電車に乗るという経験を勇気を持って受け入れました。またKIPSに行くためにどのような交通手段を利用できるかを考え、その日の旅程や交通手段を振り返ることで学習者像の「考える人」「振り返りを行う人」であることを証明しました。

単元の学習中、私たちが日々使う移動手段について話し合いました。生徒達はグループに分かれて異なる移動方法をカードを使って、空路、陸路、海路の3つに分類しました。生徒達は交通手段を特定し、分類することで、それぞれ学習者像の「考える人」「振り返りを行う人」であることを証明しました。

**Claire Yoneyama**
K1 Teacher

# K3の資金調達

私たちの生活の重要な出来事を祝う、様々な祝祭について探求する3番目のユニット**How We Express Ourselves**にふさわしい始まり方として、K3の生徒達は慌しく色々な計画をたてました。その計画とは-もうすぐお母さんになるK1-K2のアシスタント**Ms Angela**へのサプライズベビーシャワーでした！

生徒達は即座にベビーシャワーのための素敵な計画を立てました。でもそこで小さな問題に直面したのです: **私たちは心からMs Angelaにプレゼントをしたいけれど、そのためのお金がない。**

多くの生徒達、はお父さんやお母さんに頼めばお金をもらえると提案しましたが、先生たちからは生徒達自身でお金を集めることを提案しました！ 先生たちからの提案は、生徒達が自身のライティングや細かい細工のスキルを活かして、様々な祝祭のためのカードを作り、売ることでした（丁度算数でお金のことも学んでいたので、すべてが上手く結びつきました!）。**そして、その活動中ずっと、これら祝祭が世界中で何故、どのように祝われているのか**や、これらを祝うためにどのような言葉・メッセージがふさわしいかを並行して学ぶことができました。

生徒達は創造性を駆使して楽しみながらカードを作りました。ある生徒はカードの裏にバーコードを書き込み、また他の生徒は、バレンタインカードのハートが飛び出す仕掛けを作りました。

驚いたことに、K3の生徒達は私たちの予想を遥かに超える、3,000円近い売り上げを達成しました！ 当日はK3の保護者の皆さんが、たくさんの小銭をもって活動の応援にいらしてくださいました。また、KISTの**先生方**、**Ms Leslie**、**Mr Bradley**、**Mr Yoshihara**、**Mr Jones**、**オフィススタッフ**やエレメンタリー、セカンダリーの**生徒達も**カード

を買いに来てくれました。皆さんに大きな感謝を奉げます!!!

この活動の結果、私たちは**Ms Angela**に髪飾りを、赤ちゃんにはテディベアを、そしていくつかの風船と手作りの飾りやカードを贈ることが出来ました。私たちのサプライズベビーシャワーは大成功でした!! でも、それよりもさらにすばらしい出来事がありました。それは私たちが直面した別の問題: **残ったお金はどうしよう?**ということでした。議論の後、K3A と K3B の生徒達は**「お金を持っていない人たちにあげよう」**という思いやり深考えに自主的に到達し、私たち教師を感動させました。そして私たちは生徒達が思いついた通りの事をしたのです!私たちは残ったお金をエレメンタリーオフィスにもって行き、役に立つように募金して欲しいとお願いしました。この活動を通して生徒達は学校のミッションである「国際社会に貢献する」ことに一歩近づきました☺

**Christie Chung**
K3B Teacher

# KIPSでのPYP

皆さん、こんにちは。今回はKIPSでK1、K2クラスがどのようにPYPを学んでいるかお知らせしたいと思います。

## K1

K1クラスでは、'How We Organize Ourselves'のユニットを通して、身の回りにある交通機関の種類や色々な機会でどの交通手段を使うかなどを学んでいます。K1クラスではこれらを学ぶために色々な遠足を企画しました。浜町駅から森下駅まで電車で行き、森下駅からKISTまで歩いてみたり、KIPSからKISTまで歩いてみたり、KIPSからKISTまでスクールバスで出かけたりしてみました。子ども達はKISTへ歩いていくのはとってもとっても遠いからいい考えではないよね、疲れちゃうもんね、と言ったり、電車で行くのもよくないよねと話しています。森下駅からKISTまでの道のりも電車を乗って緊張した後には長く感じましたので仕方ないかもしれませんね。また、子ども達はKIPSから毎日のように出かける浜町公園は電車やバスで行くのは近すぎるからよくないと言い、自転車で行くのは危ないからダメだとも話しています。このようなに色々な経験を通して、子ども達はたくさんの事を学んでいます。

**Eri Ozawa**
KIPS K1 Teacher

## K2

K2クラスでは、私たちの身の回りの自然界について、'Sharing the Planet'のユニットを通して学んでいます。色々な生き物の特徴について話し合ったり、学校の回りの生きているものとそうでないものを見分けたりしています。また、色々な生き物がそれぞれ生きていくためには何が必要かについて話し合い、それについて書いたりもしました。そして、K2クラスの子ども達は、新しいクラスペットのSnowy（白いハムスター）の面倒を見たり、自分達のプランターに入っている植物を毎朝、土の具合を調べてお水をあげたりしながら、きちんと責任をもって、身の回りの生き物の世話ができるようになるよう学んでいます。また、3月には上野動物園に遠足に行きます。そこでもたくさんの生き物について学べることを楽しみにしています。

**Luke Callaghan**
KIPS K2 class Teacher

# K3世界がどのように機能しているか

K3の生徒達は「世界がどのように機能しているか」の単元で単純な(構造の）機械について学習しました。この単元の中心となる考えは、「単純な仕組みの機械のほうが操作が簡単である」です。この単元を始めるにあたり、生徒達は紙からハート型、又は星型を切り取る、という課題を与えられました。クラスにあるすべての鋏は、生徒達が使えないよう、あらかじめ隠されていたので、生徒達はこの課題を非常に難しく感じていました。

生徒達が様々な単純な機械について詳しくなっていくに連れて、様々な職業にもこのような機械の助けが必要であることを理解するようになりました。またこの単元学習の一環として、生徒達はパン屋さん、美容師さん、建築作業員さんや、古生物学者に扮してロールプレイを行いました。生徒達は特に、古生物学者に扮することを楽しんでいました！「古生物学者」たちは、かなづちと、マイナスドライバーをてことして使い、化石を見つけるために岩を割りました。この活動は化石の入った石をご寄付くださいましたK3AのMarieのご両親のご好意により可能となりました!

**Kay Shinada**
K3A Class Teacher

# Art in All of Us

12月に、ケイ・インターナショナルスクールのエレメンタリー生たちは 'Art in All of Us' http://artinallofus.org/ への支援と啓発活動のため、年賀状を使った募金集めに参加しました。生徒達は、家族やお友達に送る年賀状に熱心に絵を描いたり、スタンプをしたりしてデザインしました。また、サンタとの写真撮影による収益も、Art in All of Usへの募金に使われました。また、5年生による地域のためのfood drive（チャリティ活動）も行われました。これらの活動の収益は合計で約42,000円(約350アメリカドル!)にものぼりました。

この時期、私たち皆が家族や友人に囲まれ、たくさんの食べ物と、場合によっては必要以上の贈り物にも囲まれています。世界中の子供たちの間にある不平等について考え、感謝の心を育てるためにも、子供たちによる支援活動を促進することは不可欠です。今回、生徒達や保護者の皆さんが親切に支援の手を差し伸べてくださいました。AiA では、子供たちが自身や自身の生活を表現し、地球規模の創作の場として、お互いの類似点を見出すための手段として美術や写真、詩歌を用いています。

共通の目標のための意思統一に踏み出すには、振り返り、コミュニケーション、開かれた心と、感謝の気持ちが

不可欠です。地域社会だけでなく、地球規模で互いの相違点を理解し、祝い、支援することは非常に重要なことです。KISTでこのような意識を高めるための募金活動が引き続き行われることによって、幼い心に共感の精神が育まれ、どのようにささやかなものであっても、与えることによって何かを変えていけるのだと学んでくれることを期待しています。このような気持ちが育つことによって、生涯に亘り、社会に意義深い貢献ができるようになっていくのだと思います。

皆様の貴重なサポートに心から感謝いたします。

**Helen Campbell**
PYP Art Teacher

Art. Art. Art.

# KISTでの演劇集中ワークショップ

2016年1月に、KISTではニューヨークから演劇の専門家2名を2週間お招きして、演劇に関心のある生徒を対象に「集中的な」演劇ワークショップを開催しました。このワークショップは2週間の間ほぼ毎日開かれるという濃密なものでした。ワークショップの締めくくりとして、生徒達は小規模な発表会に参加しました。参加した生徒達はこの活動を楽しみ、来年も引き続きこの機会が設けられるのを楽しみにしているようです。以下はG9から参加した男子生徒、**Igor**による短い記事と写真です。

**Mark Cowe**
Secondary School Principal

演劇と聞いて、まず何を思い浮かべますか? 映画やシェークスピアでしょうか。それとも昼休み中に友達がやる物まねでしょうか? 私にとって演劇は、全く違う視点に立つことです。今回の集中演劇ワークショップでは、演劇にかかわる事柄すべてをカバーしてくれました。これでもまだあいまいかもしれません。今回のワークショップは何だったのでしょうか? 答えは、2週間の間に演劇に関するありとあらゆる活動や講義を行う「クラブ」活動です。では、その中で一番良かったことは? 答えは、2名の講師、ニューヨーク出身で、色々な映画やテレビでも活躍しているCeline と Loganの指導を受けられた事です。

ワークショップの期間中、私たちは様々な活動や講義に参加しました。例えば、舞台での正しい振る舞い、どのように観客の視線を集めるのかについて学びました。また、このワークショップでは、すべての文学作品の中でも最高峰といわれるシェークスピアについても学ぶことが出来ました。また、prior circumstancesという活動も行いました。これは、例えば、「宝くじに当たる」などのかなり特異な状況設定を与えられ、通常の会話が書かれた台本をこの状況に合わせて演じることです。大切なことを忘れるところでした。このワークショップでは最後に全員参加の発表会を行いました。歌詞のついたMovementと呼ばれる、予め決められた動きに合わせて他のメンバーと一緒に一人芝居か芝居、更には踊りを考えます。とても難しかったのですが、演劇スキルを向上させるにはとても効果的でした。様々な方法で自己表現することによって、自身の限界や、自分に何が出来るのかを見極められます。また、演劇にはIBでの成功に必須の能力である、論理的思考力や協調性、コミュニケーション能力が求められます。

私の言いたいことは以上です。来年も講師のお二人が戻ってこられるという噂もあります。来年の予定を空けて置くのはいかがでしょう…

**Igor** (G9A)

# セカンダリーWall of Honor（名誉の壁）

2015年12月11日に、KISTではG6からG8の生徒を対象に、IB学習者像の性質をよく体現した生徒を表彰するため年に2回の開催されるWall of Honor Ceremonyを行いました。IB学習者の性質とは以下のとおりです：バランスのとれた人、思いやりのある人、コミュニケーションができる人、探求する人、知識のある人、心を開く人、道義心のある人、振り返りが出来る人、挑戦する人、考える人。

この賞の特筆すべきところは、受賞者が他の生徒の推薦によって選ばれるということです。この賞の数週間前にG6-G8の生徒達は候補者の名前と、何故その候補者が学習者像にふさわしいのかについて簡単に説明を書き込むための推薦書を提出することが出来ます。

2015-2016学年度のWall of Honor Ceremony最初の受賞者のうち2名が以下の感想を寄せてくれました。

12月の表彰の全受賞者と学習者像は以下のとおりです。

**G6A**
**Yuzu** – Knowledgeable
**Ryuta** – Communicator
**G6B**
**Anna** – Caring
**Kaiser** – Balanced
**G7A**
**Deniz** – Inquirer
**Uri** – Open-Minded
**G7B**
**Sinali** – Caring
**Sung Guk** – Communicator
**G8A**
**Ji Hye** – Principled
**Yongjun** – Risk-Taker
**G8B**
**Gaon** – Knowledgeable
**Michiru** – Caring

Wall of honor ceremonyの間、私は友人たちと受賞者の予想をしていました。私は自分がIB MYPの「心を開く人」の要素を備えているとして表彰されるとは夢にも思っていませんでした。自分の名前が呼ばれたとき、私はあまりに驚いて、すぐには声が出ませんでした。私は気が動転してしまって何の賞を貰ったかも聞こえていませんでした。Wall of honorに自分の手形を残しに行ったとき、やっと自分が「心を開く人」に選ばれていたことを知りました。私が自分の手形に選んだ色は、ハウスカラーの緑でした。絵の具はその日の寒さに合わせたように、少し冷たかったです。体育館で賞状をいただいて、席に戻ると、友人たちが祝福してくれていてとても嬉しかったです。私は自分がこの賞をいただけるような、どんなことをしたのかを振り返ってみました。私は今年KISTに入学したので、出来るだけみんなと友達になれるように心がけていました。そして数日経つと、宿題に困っているクラスメートを手伝うようになりました。(実を言うと、新入生の私がなぜ皆に教えることになっていたのかは分からないのですが)そして、いつでも他の人たちの意見を受け入れるように心がけていました。

**Uri** (G7A)

発表の日、私は自分の学年や、下級生がG6-G8全員の前で賞をいただくのを、とても弾む思いで見ていました。私は、Wall of Honor ceremony で、Mr Van Loh が私のほうを見、私の名前を呼ぶのを聞いて、とても驚きました。なぜなら、私自身は自分が思いやり深いとは思ったことがなかったからです。壁に自分の手形が赤く残されたとき、私は始めて思いやり深くあることの大切さに気付かされました。毎朝、毎日、友人や先生方、そして周りの人たちに「おはよう」と声をかけ、「おはよう」と返すとき、私たちは思いやりの心を示しているのだと思います。お互いの大切さに気付き、互いに気遣いあい、居場所を与え、皆が「ここにいていいのだ」と感じられるような雰囲気を作ることが「思いやり」なのだと考えます。思いやりを持つ人、として表彰されたことは私に大きな影響を及ぼしました。思いやりを示すためには、レストランのウェイトレスさんのように誰かの椅子を引いてあげたり、好きな食べ物を提供したりすることではなく、毎日の生活でごくあたりまえに行うことで十分なのだと気付きました。私たちはこの世界にただ一人でいるのではなく、他の何億もの人たちと共存しているのです。私たちの行動によって人を傷つけたり、また、癒すことも出来ます。それならなぜ傷つける必要があるのでしょうか? Wall of Honor の表彰を受けたことで、私はこれらの事について考え始める機会を得ました。もし、皆が相手を思いやれるなら誰も傷つかない世界が作れるのだと気付きました。いつか、KIST生だけでなく、世界中の人が思いやりの大切さに気付き、行動にうつせる日が来ることを祈っています。

**Michiru** (G8A)

今年の、麻布子ども中高生プラザで開催されているArtscape展示会でも、KIST生を含む、関東地区の才能溢れる生徒達の創造性に満ちたすばらしい作品が多数展示されました。今年はG6からG12までの生徒が、絵画、水彩・油絵、プリント（デザインや複製の制作）、3Dデザインや彫刻などの作品を出品しました。

今回参加した皆さん、良く頑張りました！KIST生の作品がこのように多く展示されているのを見ることが出来て、非常に誇らしく思っています。今年は、展示される作品を作品を選ぶのに苦労しました。

**Emma Justice**
MYP/DP Visual Arts Teacher

***Hugo*** *(G6A)*

***Hae Soo*** *(G11A)*

***Naman*** *(G9A)*

***Julie*** *(G8A)*

***Cindy*** *(G12A)*

***Hee Dae*** *(G12A)*

***Emiri*** *(G9A)*

## Artscapeマスタークラスワークショップ

数人の生徒達はArtscape開催中に実施された、聖心インターナショナルスクールでのプリントや陶芸、Newインターナショナルスクールでの写真とフォトショップ、清泉インターナショナルスクールでの人物デッサン、そしてここKISTで開かれた紙を使ったファッションデザインなど、様々なマスタークラスセッションにも参加することができました。これらのセッションはすべて土曜日に先生方の好意で実施され、関東地区から多くの生徒が参加しました。このセッションは他校の設備を見学し、実際使用できるだけでなく、他校生と交流し、新しい技術や素材に触れることが出来るすばらしい機会でした。

# ミドルスクールBrain Bowl感想

## Nimit (G8B)

私はチームHに所属していました。私たちは自分たちのチームの事を「歴史家チーム」と呼んでいましたが、これは誰も特に「歴史」に詳しいメンバーがいない私たちにとって自虐的なチーム名でした。私たちのチームはすぐに全体で一番にぎやかで、声の大きいグループとなりました。また、予期していないことでしたが、チームメンバーは知り合ってすぐに打ち解けることが出来ました。グループのメンバーはAobaの男子1名、清泉と聖心からそれぞれ女子1名、そしてKISTから私の4名でした。ただ、問題は、私たち全員の得意分野が;数学、科学、そして総合問題、とかぶってしまっていたことでした。幸運にも、他の分野に関しては、私たちの知識を総動員して何とかすべての問題に対応することが出来ました。

今回は私にとって2回目のMS Brain Bowlでした。そのため、何が起きるかについてある程度の予備知識はありました。少なくとも自分ではそう思っていました。私は自分の経験をチームメイトと共有し、皆で今回の競技に挑む気合は十分にありました。私たちのチームは最初のQ&Aの5回戦までは順調でしたが、いくつかの分野で知識が不足していたために、点を落とすようになってしまいました。それでも私たちは希望を失わずに早押しにかけていました。そして、その通りになったのです。私は3－4回ボタンを押すことが出来、殆どの問題に正解しました。順調に対戦を進めるにつれて希望は膨らんできましたが、それもnovelties roundまででした。この回の出題の多くは予期しないもので、答えに確信が持てませんでした。この回では何点か獲得することは出来ましたが、あまり多くを正答することが出来ませんでした。競技の終わりには頭がクラクラして余力など全くありませんでした。

全体として振り返ると、この競技に参加してよかったと思います。多くの新しいことを学べた良い機会で、他校生徒も交流することが出来たからです。チームが勝つ事はできませんでしたが、それでも今回のことで、勝つためにはチームワークと知識の両方が同じくらい大事なのだと学ぶことが出来ました。この新しいことや、協調性、思考力を学ぶことが出来るすばらしい機会であるこの活動を5－7年生の皆さんに推薦します。そして、運がよければ、一日公休を取ることも出来るのです!

## Aditya (G7B)

Brain Bowl トーナメントで最初にするのは自分のグループメンバーを見つけ・知ることです。自分のグループのメンバーが「強い」のかや、その他のことをまず知りたいと考えます。グループはそれぞれアルファベットがあてられていて、そのほかに自分たちでグループの通称をつけることが出来ます。私たちはグループOだったので、Oで始まる最もかっこいい名前として、通称をOrionに決めました。グループには別の学校から男女それぞれ2名ずつ割り当てられます。私のグループにはAoba-Japan インターナショナルスクールの男子と、(多分)清泉と聖心から女子が1名ずついました。昨年に比べて、各自の得意分野が異なっていたので、グループの実力が少し上に感じました。

グループメンバーに会って、グループ旗を作ったら、競技の開始です。競技は全部で12回に分かれていて、それぞれの回で10問ずつ出題されます。私たちが知っていることもたくさんありましたが、学校で習うようなことばかりではないので、知らないこともたくさんありました。そして早押しの回もありました。私にとっては2回目の参加だったので、少しは落ち着いていられましたが、やはり自信たっぷりというわけではなかったので、いくつか間違えてしまいましたし、ボタンをしっかり押していなかったといったミスもしてしまいました。私のグループは何故いつも他のチームは簡単な問題が出題されるのに、自分たちには難しい問題が出されるのかを不思議に感じていました。その後、昼食をはさんでnovelty roundが始まりました。そこまでで、すでに疲れてしまっていた上、(画像化されたキャラクターとそのキャラクターが登場する作品名と作者を当てるなどの)難しい問題が出されたので、苦戦しました。

最終的には他の3チームと同点で上位10位に入りましたので、頑張った甲斐がありました。トップ3には入れませんでしたが、とても楽しい経験でしたし、多くのトリビア知識を得ることができたうえに、他校の生徒と一緒に競技に参加できました。全体的に見てとても良い、貴重な経験でした。もし、来年の参加を検討している人がいたら、とても楽しい経験が出来ることを保証します。

# 児童労働に関する意識啓発

12月にG8のAyaka、Sara、Remi、Emi、Emilyの5名が貧困と児童労働の問題に対する関心を高めるためにBake Saleを行いたいと提案してきました。授業で学んだ事から行動に移す良い一例であり、5人が協力して準備から当日まで頑張っていた事がとても印象的でした。売り上げ金はUNICEFに寄付されました。生徒のコメントを紹介させていただきたいと思います。

**Shun Nakade**
Service Coordinator

私は、この活動の間中、世界中で、自分たちとさほど変わらない年齢の子供たちが直面している貧困や児童労働について多くのことを学びました。私たちはIndividuals and Societiesのクラスで児童労働や貧困について学んだことで、この活動を始めることを思いつきました。私たちは奉仕活動についての計画を練り、冬休み前の最終日にBake Saleを行いたいと提案しました。Bake Saleの前にEmiの家に集まり、12月18日にウッドデッキで売るためのお菓子を焼いたり、飾り付けをしたりしました。

学校でBake Saleを行うことは初めてだったので、とてもわくわくしましたし、お菓子の準備もとても楽しかったです。Bake Saleでお菓子を買ってくれた皆に感謝したいです。

**Remi** (G8A)

このBake Saleを思いついたきっかけはIndividuals & Societies の授業で学んでいたことでした。私たちは児童労働の過酷さと、これが未だに世界規模の問題であることを学びました。この問題についての知識を得た上で、援助を必要としている人たちのために行動することは大切だと考えました。

Bake Saleを行うにあたって、私たちはいつ、どこで、何を売ったらいいのかを考えることから始めました。たくさんの生徒を始め、先生方も買いにきてくれたので、Bake Sale当日は大成功でした。このイベントを行えた事は貧困や児童労働に関する意識を広めるためにもとても意義深いことでした。私たち全員にとって、この活動は非常に良い学びの機会であり、また是非このようなことをしたいと思っています。

**Emi** (G8A)

# オフィスアップデート

## KISTを退校予定されますか？

今学年度中にお子さんがKISTを退校される場合は、退校予定日の最低でも1ヶ月前（またはそれ以上前！）にオフィスに**退校届（Student Withdrawal Form）**をご提出ください。本フォームは学校ウェブサイトの以下リンクからダウンロードできます。

http://www.kist.ed.jp/ja/node/258

## ファミリーハンドブック

前号の*The Comet*でもお知らせしましたとおり、以下学校ウェブサイトからオンライン版の**Family Handbook** を入手いただけます。学校の方針や手続きについてお知りになりたい場合はハンドブックを参照ください。

http://www.kist.ed.jp/ja/node/922

# 図書室ニュース

## World Cultures Day 2016

「**異文化理解**」や「**母国語サポート**」を促進するためにケイ・インターナショナルスクール東京で開かれる**World Cultures Day**も今年で5回目を迎えました。この、毎年進化し続けるイベントは皆様のご協力無しには実現できません。

4年前にKISTに導入された当時はInternational Mother Language Day（国際母国語デー）と呼ばれていたこのイベントの一番の見せ場は、民族衣装でのパレードです。今年は近隣の**深川小学校**の生徒さんたちもお招きしました。イベントをとても楽しんでくれた深川小の皆さんも、来年は民族衣装を着て参加してくれるそうです！生徒達はOne Voiceグループの歌やBollywood Dancersの踊りや、KIST Comets チアダンスチームのパフォーマンスも楽しみました。パレードはとても色彩豊かで、多分、これまでで最高のものだったと思います！

セカンダリーからは生徒プレゼンターがエレメンタリー生にポーランド語、中国語、韓国語、フィンランド語、スウェーデン語、そしてフラを指導しに来てくれました。もっと年齢の低い生徒達には、保護者ボランティアの方々が英語、フランス語、スペイン語で本の読み聞かせにいらしてくださいました。4・5年生は、人気の落語家、林家三平さんによる日本の伝統芸能である落語を英語で聴く機会を得ました。

セカンダリースクールの昼休みの時間帯には、司書のMr Andi の監修、SRCの協賛による民族衣装のファッションショーが行われました。ファッションショーの目的は、KISTコミュニティ内の異なる国籍に敬意を表すと同時に生徒の個性を表すことでした。この他にも、G6からG8のアドバイザリーでは"**Third Culture Kids**"（母国以外の文化圏で何年も過ごしている、或いは過ごしたことのある子供達）についての講演が行われました。また、G9・10の生徒達向けには、LMCで、MYPコーディネーターのMr Whiteが手配くださったDP生による生徒主導のセミナーが開催されました。最後に、一日の締めくくりとして、生徒達が自由に踊りを楽しむため、SRC主催の世界文化をテーマとした、ミドルスクールダンスが開かれました。

色々な活動でおなかがすいてしまった人たちのためには、CA図書委員会がMPR前で国際的な食べ物を販売してくださっていたため、保護者、生徒、そして来校者は、様々な文化的背景を持つコミュニティメンバーによる美味しい食べ物の数々を楽しむことが出来ました。当日お手伝い下さったCA保護者の皆様、ありがとうございました！

また、MPRでは、**KIST TASSEL**に参加している生徒達が、写真ブースで約**25,000円**の利益を得ました。CAS活動の一環として、TASSEL 生たちは、カンボジアの恵まれない生徒達にLMCのウェブカメラを使って英語を教えることを目標としています。このイベントの収益はカンボジアの生徒達のための学用品購入に宛てたいと考えています。本イベントを大成功に導いてくださった図書チームの皆さんのサポートに感謝します。

**サクラメダル**

図書の伝統の一つである**サクラメダルプログラム2016**が今年もやってきます！エレメンタリー図書室の2016年度図書リストから5冊の本を読めば、お気に入りのサクラメダルの本に投票することが出来ます。投票に手助けが必要ですか？ Please see Ms Leslieが投票用紙を提供したり、本を選ぶ手伝いをしてくださいます。

次のページに続く

前ページの続き

## サクラメダル・ブックボウル

クラブリーダーのMs Bridget (G4)、Ms Katie (G1B) そしてMs Leslie（エレメンタリー司書）のおかげで、KIST のG4とG5の生徒達は今年もサクラメダルブックボウルに参加することが出来ます。サクラメダルのチャプターブックについての知識を問うこの競技にKISTが参加するのは、今年で2度目です。今年の大会は4月12日に横浜インターナショナルスクールで開催されます。チームは今年も熱心に準備を進めていますが、今年は非常に厳しい戦いが予想されますので、皆さんも、チームの健闘を祈っていてください！

## サクラブック・トレーラーコンテスト（セカンダリー生対象）

**3月1日から25日まで、**LMCではサクラメダル2016年の日本語・英語の課題図書を元に生徒達が制作したトレーラーを回収します。これらトレーラーにはハウスポイントが加算され、さらに賞品が与えられます。コンテストに関する詳細はポスターやDaily Noticesでのお知らせを確認してください。

## 蔵書の更新情報

**Nikita** (G10A)が率いる数名のセカンダリー生はLMCの蔵書に追加するフィクションの推薦リストをまとめています。このブックブログ・グループはKIST図書室の目標である「楽しむための読書」をサポートすることを目的に活動しています。毎月図書室に興味深い図書をご寄付くださいます**CA 役員の皆さん**と、**CA 図書委員会の皆さん**に特に感謝いたします。ご寄付いただいた書籍はすべて、図書室の新着書籍の棚に展示してあります。

**KIST Library Team**

# 良識ある態度を促進する

KISTでは全ての生徒に対して常に学校内外での、「**尊敬、責任、そして 安全**」を促進しています。この原則は**ファミリーマート**（学校最寄のコンビニエンスストア）や、**東京メトロ各駅**においても有効です。どこであっても、「最上の行動」を心がけるよう生徒達に説明することが重要です。ホスト国である日本の文化を**尊重することは**学校の評判にもかかわり、さらには私たちが日ごろ学校や家で指導している価値観をも反映するものであると考えます。このため、学校は、保護者の皆様にも「**良いマナーや正しい態度、そして社会スキル**」についてお話いただけますようご協力お願いいたします。私たちはどちらも共通の目標である未来の社会のためにも「責任ある市民」として生徒達を手を携えて育てていく義務があるのです。

また、コミュニティの皆さんに特に強調し、またご協力いただきたいのは登下校時の学校の正門でのID（Edy）カードの使用です。地震や火事、不審者の侵入などの際に備え、生徒達の入退室記録を把握することは必須事項です。学校の安全な学習環境を確保・維持するためにもお子さんにこのルールを遵守するようお話いただけますようお願いいたします。

**Andi Licuanan**
Secondary Student Conduct Coordinator

# セカンドハーベスト

12月4日、11日10時から12時30分まで、浅草橋にあるセカンドハーベストへボランティアに伺いました。子供たちが企画して行うフードドライブ等で関わりをもつセカンドハーベストに親も実際に参加して理解を深めるためです。両日とも翌日土曜日のホームレスの方々への炊き出しの下準備のお手伝いでした。当日は20分程セカンドハーベストの仕組みについてお話しをきいた後、それぞれ包丁を持って野菜切りのお手伝いをしてきました。当日はKペアレンツ以外のボランティアの方々とお話しをしながら楽しく参加することができました。コミッティでは再度機会を設けてお手伝いに行くスケジュールを設定したいと考えています。セカンドハーベストはどんな感じの所か興味をお持ちの保護者の皆様、次回は是非みんなで参加しませんか？

**スチューデントイベントコミッティ**
KIST Community Association (CA)
**ca.studentevents@family.kist.ed.jp**

# G12 DP経済クラスの遠足

## 日本銀行で、マイナス金利について学ぶ

2016年2月2日にDP 12年生の経済クラスは日本銀行を訪問する機会を得ました。この遠足に先立って、中央銀行がマクロ経済上の目標を達成するためにどのように金融政策を行うかについて学習していました。この問題について理解するため、授業では様々な活動や議論を行いました。そして、さらに深く銀行の役割や運営について学ぶために「銀行の中の銀行」、政府の銀行である日本銀行を訪問することになったのです。

私たちはまず、広報主任の方にお会いし、銀行内をご案内いただき、また、日本銀行や、日本の全ての金融機関（銀行）が最近採用したマイナス金利方針について簡単にご説明いただきました。まずはビデオで1882年に建築され、日本の重要な文化的象徴でもある建物、そして銀行の歴史についての基本的な情報を学びました。ビデオの後で、現在も銀行業務が行われている新旧の建物をご案内いただきました。もっとも興味深かったのは、以前、金塊や発行されたお札が保管されていた貴重品保管庫の見学でした。保管庫は25トン以上にもなる三層の金属扉に守られていました！この最初の扉の先にはこちらも頑丈な2つの扉がありました。日本銀行が歴史的価値のある建物を今でも維持管理していることを見ることができ感銘を受けました。現在日本銀行の業務が行われている新館は非常に活気に満ちた場所でした。日本銀行が一日に扱う取引が100兆円を超え、そして銀行が年中無休で業務を行っていると聞き、非常に驚きました。

銀行内のツアー後には、2016年1月29日に発表された新たな「マイナス金利」について簡単にご説明いただきました。日本の景気停滞への対応策として日本銀行は、日本国中全ての金融機関に対し予備資産から企業に融資する際、-0.1%の金利を課しました。この方針は私たちのような個人顧客には直接関わりがないと聞き、安心しましたが、日本が支出や融資を増加させる計画を持っていると聞き、嬉しく思いました。結局のところ、この政策は日本経済をより良くするためのものなのです。私たちのクラスは日本銀行を訪問し、銀行とその業務をよりよく知るために、このような機会を設けていただいたことを非常に光栄に思いました。この経験を通し、銀行や金融機関について更に知りたくなりました。

このような素晴らしい機会を提供してくださった経済クラスの先生方、Mr Cernak と Mr Erickson に感謝します。

**Raj** (G12B)

# IB Mock Exam Reflections

## 模擬試験: 隠れた祝福

模擬試験についての反応といえば、「模試！IB試験の悪夢は1回だけで十分だから!?」というものだと思います。少なくとも、僕の反応はそうでした。

模擬試験や、試験全般に対する典型的な初期症状といえば否定や不安でしょう。これはたいてい模擬試験の1ヶ月前に表れるもので、1ヵ月後に模試があるという事実を否定し、ぐずぐずと(勉強を)先延ばしにすることと、模試に落ちたら(良い点でなかったら)どうしようという不安の狭間で苦しむことになります。試験日が近づくと、更に感情が乱れてきます。十分に勉強していなかったことへの罪悪感、模試で好成績をあげることができるかも、というむなしい期待、そしてそもそも何故DPを選択してしまったのかという後悔…

さて、ここからが運命の分かれ道です。右に進み、勇気をかき集めて勉学に励むか、左を選び、僕自身が踏み込んだ初期段階より更に悪い、喪失や自棄の泥沼にはまり込むか。皆さんにも、模試の数週間前にこの自棄段階が訪れると思います。この段階に至ると、あまりにも準備不足であることに絶望し、Mr Roseに、どうしようもないほどの落第点を取ってしまったと宣言されている、と錯覚するほどです。その結果、家で教科書を叩きつけたり、その他、諦めを表すあらゆる行動をとるようになります。

そして、模試直前の週末になって、やっとあらゆる感覚が麻痺し、家族や学校、自身への許しがたい屈辱を回避するために勉強を始めるのですが、実際の模試は、実は単なる総合的な復習、集中、緊張感と自己満足の入り乱れたものに過ぎないことをやっと悟るのです。

模試後の最初の週は学習量からいうと、比較的のんびりとしています。試験の結果が戻ってくると、がっかりするものと、幸せになるものとに分かれます。でも、この段階で、皆比較的早くに気持ちを切り替えて、まじめに勉強に集中するようになります。その後は、クラスでの復習がひたすら続くのです。

上記は、最初の模試の成績が、大学への出願に大きくかかわることになる生徒の感情の動きを記したものです。僕は(オーストラリアの学校システムのため)幸運にも2016年の7月から出願を始めますので、他の人たちほど大変な状況ではありませんでした。でも、ここで真面目な話をすると、最初の模試で好ましくない結果を出してしまったことで、最悪の結果への心構えも出来、2回目の模試と5月の本試験のために真剣にに勉強に取り組む気持ちが生まれたのだと思います。

**Joh** (G12A)

## 模擬試験を終えて…

皆が3週間の冬休みを楽しみにしている中、12年生は6日間に亘る模擬試験のための勉強をしていました。始めての模試の準備は、教科の多さに加え、11年で学んだことの復習もあったので、とても大変でした。すべての内容を復習するための効果的な方法を見つけるまでが、また大変な作業

でした。そこで私が見出した唯一の方法はノートを取りながら出来る限り多くの問題を解くことでした。3週間の休み中は、IBの問題形式に慣れるために多くの問題を解きながら、あらゆる事柄を復習しなければならず、ストレスでいっぱいになりました。

毎日2･3科目の試験を受け、次の日の試験の準備をすることで、6日間はあっという間に過ぎていきました。この期間は冬休みの3週間と同じくらいストレスでいっぱいになりましたが、模試が終わってみると、大きなストレスであったにもかかわらず、非常に多くを学べた有意義な時間だったと感じました。IBの本試験と同じ環境で模試を受けられたのは私にとって貴重な機会でした。

IB本試験には緊張と不安、フラストレーションでいっぱいになると思いますので、模試と、そこでのケアレスミスは、試験の場で自分が最上のコンディションを保つにはどうしたらいいかを考えることができる良い機会でした。また、数ヵ月後の次の模試までに自分の苦手分野や、教科に気付くための良い機会だと感じました。

試験の準備と、実際の試験は緊張の連続でしたが、同時にとても有意義な時間でした。

**Yu Jin** (12B)

## 模擬試験

私やその他のDP生に模擬試験が徐々に忍び寄ってきました。ごく初期の段階から、模擬試験の恐ろしさやストレスについて聞かされていましたが、実際にその時が来てしまうと、そこまで悪くはなかったです。

もうすぐDP生になる皆さんに私からのアドバイスです。とにかく**勉強**することです。数ヶ月前から準備を始め、嫌いな教科にも集中し、聖書であるかのように教科書をとにかく読み込むことです。アドバイスはどんなものでも役に立ちます。ぐずぐずと先送りにすることは絶対悪であると覚えておいてください。もちろん映画を見たり、ゲームをしたり、冬休み中に友達と遊びたい気持ちは良く分かります。でも、そうしてはいけないのです。DPとはそのようなものなのです。結局のところ、よく考えてみると、たった1ヶ月の苦労です。試験が終わりさえすれば、好きなだけ自分にご褒美を与えることが出来るのですから。

最初にスケジュールが知らされたとき、私はパニックになりました。あれほど恐れていた試験が近づき、恐慌状態になってきていました。私にとって模擬試験はまるで友人たちを一人また一人と「変えていく」(有名なJohn Carpenterの映画の) "The Thing" のように思えました。すべて上手くいくと言う自己暗示にもかかわらず、心の中は被害妄想でいっぱいでした。

模擬試験のための勉強が一番大変でした。ここで、前に進むか、やめるかを選ぶことが出来ます。私は前者を選びましたが、その選択に満足しています。一番集中して勉強した教科は経済とESS(環境科学研究)でした。

次のページに続く

前ページの続き

これらは私が最も勉強すべき教科でした。一方で、すでに十分な知識があった数学には余り時間を掛けませんでした。勉強には主に過去問と教科書を使いました。また学習スケジュールは単純なもので十分でしょう。私は机の上に「明日ESSと経済をやる。英語は今日の午後」といったメモを貼っていましたが、その程度で十分です。勉強するには意欲がなければなりません。私は勉強の後で、自分へのご褒美として映画を一本か二本見ることにしていました。こうすることで、プレッシャーを軽減し、神経を休ませることが出来ました。このように勉強とご褒美を繰り返す数週間が過ぎ、模擬試験が始まりました。

ついに恐れていた試験会場に着いたのは、とても寒い朝でした。会場はごく普通のビルでしたが、私にとっては地獄への入り口でした。遅刻しないように心がけていたので、私は一番乗りで会場に着きました。これが大きな間違いでした。私は早くに着きすぎてしまったので、寒さで凍えてしまいました。数分後に私の友人たちが到着しました。彼らは皆、最後の最後まで必死で復習や暗記をしていました。数時間後、私の最初の試験である「経済」が終了しました。試験中は全く緊張せず、ただ試験問題を無心に解いていました。この段階で、試験の内容がすべて分かったので、非常に報われた気持ちでした。勉強したことは役に立ったのです。また、模擬試験の一番よいところは休み時間です。休憩の間は友人たちと自由に好きなところに行くことが出来るのです。私は数人の友人たちとDenny'sに行き、苦しみや喜びを共有しました。数日後、試験は終わりました。私は安堵とともに、近づく最終試験への準備が整ったことを感じていました。

しかし、結局のところ、模擬試験は一つの経験に過ぎません。ネットでささやかれているDP神話が本当なのか、それともそれほど悪くはないものなのかは、皆さんが自身が経験し、判断することです。とにかくしっかり勉強さえすれば大丈夫です。自分自身を褒めてあげてください。そして、意欲を失いさえしなければ、大丈夫です。とにかく前進あるのみです。

**Masaki** (G12B)

# エレメンタリーELS

## 少人数グループでの学習が、言語習得効果を発揮

KISTコミュニティメンバーとしての経験が長い方は、授業で多くの小グループ活動が行われていることをご存知だと思います。同級生3・4人との小グループで学ぶことはより効果的にカリキュラムを理解することにつながります。しかし、小グループでの利点はこれだけではありません。言語習得の観点から考えると、小グループでの学習価値は無限大です。生徒達にとって、3・4人のグループは、自分の考えを自由に、そして安心して表現できる心地よい環境です。更に、一人あたりの発言時間が多く取れるため、生徒達は十分、スピーキングの練習をすることが出来ます。特に、与えられた課題が「協力して行うもの」(事実を列挙する性質のものでなく、協力して新しいものを生み出す)であった場合、話すことへの意欲と、言語的な難易度は飛躍的に増してきます。また、作業が進むに連れて、生徒達がディスカッションなどで使用する語彙レベルも上がってきます。

担任やELSスタッフは、グループワークが定期的に単元学習に組み込まれるよう計画します。その上で、教師陣はグループ学習を観察・監督し、単元内容や目標が言語的目標と重なるように確認を行います。5年生が現在取り組んでいるPYP Exhibitionの探求は、小グループが言語習得にもたらす役割の良い例です。以下の写真で、5年生たちが、各グループで選択したテーマについて議論し、計画し、整理し、リサーチし、読み、分析し、書き出し、発表する中で、学んでいる言語のいくつかの例を皆様に共有させて頂きます。

**Rachel Parkinson**
Elementary ELS Coordinator / G5 ELS Instructor

**In Kyu** (G5A) と **Yuki** (G5B) が、Exhibitionのブログポストにコメントする際に、より正式・丁寧な言葉遣いにするよう話し合っているところ。

**Jessie** (G5A) と **Sally** (G5B) が彼女たちのテーマである「ホームレス」について最終的な探求テーマを決めているところ。

**Taimu** と **Shiven** (G5B) が、文書の作成と写真の挿入を含めたブログポストの方法について互いに教えあっているところ。

**Yudai** (G5B) と **In Kyu** (G5A) が乱獲についてのオンラインリサーチを計画する際、どちらがどの探求テーマに集中・特化するかを決めているところ。

# MYPニュース

## MYP生がWorld Cultures Day記念セミナーに参加

9・10年生は、先日のWorld Cultures Dayの締めくくりとして、LMCでの生徒主導セミナーに参加しました。

生徒主導セミナーは言語や文化におけるKIST生・教師の多様性に光を当てました。

**Sara L.** (G10B) が司会を務めたセミナーでは、言語、アイデンティティー、文化や国際理解など、様々な問題が議論されました。

DP生の**Akiko** (G11A)、**Akira** (G11A)、**Hana** (G11B)、**Mirabelle** (G11B) そして **Oshin** (G11A) はそれぞれの豊かな言語的、文化的背景が自身の学生生活にどのような影響を与えたかについて話してくれました。MYP教員で、どちらも上記についての経験豊富なMr Florent と Mr Homewoodも参加してくださいました。

### Hana (G11B)

2月19日（金）に開催されたWorld Cultures Dayの一環として、文化的アイデンティティーについての生徒主導セミナーが開かれました。DP生数人と先生方が自身の多文化的な背景と、そのことが自身の性格や考え方にもたらした影響について議論しました。日本で育ちながらも日本人ではない人たちがいる一方で、世界各地を巡りながら育ってきた人たちもいます。私は特に、これまで多様な経験をされてこられた先生方のお話を興味深く伺いました。今回のセミナーは言語や文化、そしてアイデンティティーについて多くの質問がなされ、また答えも得られた非常に有意義な機会だったと思います。

このセミナーで、私はKISTコミュニティーの文化的多様性について改めて気付かされました。他の生徒や先生方の経験や考えについて聞き、自分自身の経験について共有することで、ますます自分の文化的背景が私自身を形成するのにどうかかわっているのかについて考えさせられました。私の言語的、文化的体験がどれだけ私の考え方や価値観、そして行動に影響を与えているのかについて気付きました。また、他の人たちが同じような経験について異なる解釈をしているのを聞くのも興味深かったです。例えば、海外に住むことで文化的アイデンティティが広がったと考える人たちがいる一方で、このような経験が自身の母国の文化とのつながりが弱まったと感じる人たちもいます。どのような経験をしたのかだけでなく、そのような経験にどのように対応し、自身のものにするのかが重要なのでしょう。

インターナショナルスクールに通い、多文化的背景を持つ一個人として、多様な背景を持つ人たちと一緒にこのような国際的な環境で学べることの幸せを時々忘れてしまいそうになります。このイベントで、私がそうであったように、他の生徒達も自身の文化的背景やそれによる自己形成について考える機会を持てたことを願っています。

### Mirabelle (G11B)

それぞれの異なる異文化体験について共有できることは、インターナショナルスクールの生徒としての醍醐味です。私はこのことをWorld Cultures Day セミナーのスピーカーをすることによって学びました。

World Cultures DayはKIST世界中の文化の独自性・多様性を祝い、生徒達の国際性を育むためのKIST恒例イベントです。今年は多様な文化的背景を持つ生徒5名に加え、先生方2名もそれぞれの文化や経験が自身の生活にどのような影響を与えたかについて共有しました。

私の文化的体験は他の人たちのものほど多様なものではありませんが、それでも今回のセミナーに参加することで、これまで考えたことすらなかった自身のルーツについて感謝の念を抱くようになりました。このセミナーに参加したことで、私は色々な人の違いは単に異なる文化によるものではなく、それぞれの文化のもたらす異なる価値観に適応した結果であることを知りました。セミナーでは、国際理解の重要性が上げられました。国際理解に欠けることによって差別などの人権問題が生じていることを考えると、国際理解の重要性を実感します。このセミナーで、他の人たちも同じような経験をし、同じように感じていると知ることが出来、私は一人ではないという安心感を覚え、これまでないほどにこの学校の人たちを身近に感じました。

このセミナーで学んだことを振り返り、私たち全員が文化について異なる視点を持っており、その特異性こそが私たち個人を形作っているのだと感じました。これから社会に出て行く私たちは、真に互いを理解するために、他者の文化について理解し、思いやるだけでなく、自分自身の文化を大切にしなければならないのだと強く思いました。

次のページに続く

前ページの続き

## KIST教員がIB評価のためにの自己分析・評価に取り組む

IBワールドスクールとして、KISTは5年に1回、学校で実施されているIBの3プログラムがIBの期待値や理念に沿ったものであるかを確認するための自己分析・評価に参加します。

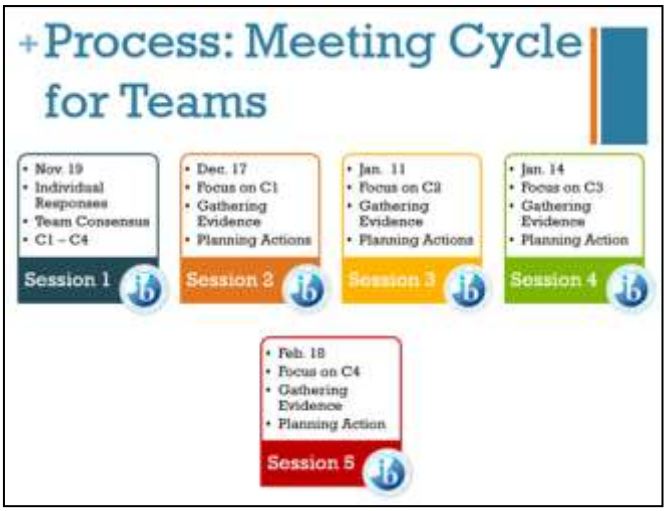
2016年11月に予定されているIB評価訪問のための作業中。

今年の自己分析・評価はCouncil of International Schools (CIS)の認可審査と同時進行で行われます。IB・CISの審査は双方、来年度中に完了します。

11月には、3プログラムにまたがった教員混成のワークショップを学校の体育館で行いました。PYP/MYP/DPを教えている教員たちがこの自己分析・評価過程における期待を共有し、今後行われる自己分析・評価についてより深く学びました。

最終的に、学校はこの過程で収集された情報を、次の5年間に教員、生徒、保護者の方の指導・理解に役立てるために使用します。

セカンダリーの日本語教師がMYP及びDP生に対するカリキュラム実践の評価過程について議論中。




学校のカリキュラムの見直し及び評価に費やされる会議の概要。

3プログラムすべてが、その強みや改善点を確認するためにも見直されます。

# セカンダリーSRC

2015-2016年度はSRCにとって実り多い年になりました。2016年度も引き続きいくつかのイベントや活動を提供していきたいと考えています。今年度に成し遂げたことをいくつか挙げてみます。

## World Cultures Day ミドルスクールダンス

2月19日にSRCはworld culturesをテーマにした初のミドルスクールダンスを開催しました! 会場に飾られた旗やゲーム、当日の衣装は学校コミュニティの様々な文化を反映していました。当日は風船競争やホイップクリーム・チャレンジなど、生徒達が楽しめるその他のゲームも行われました。また、ダンスフロア全体を照らすライトや色鮮やかな装飾はパーティの夜を華やかに彩ってくれました。

## 朝の挨拶ビデオ

毎朝の挨拶の大切さを広めるためにSRCは喜劇的な要素のあるプロモーションビデオを作製しました。このビデオは、生徒達が朝の挨拶の大切さを理解してくれることを期待し、セカンダリーのホームルームの時間に上映されました。

## SRCファッションショー

2016年の2月19日の World Cultures Day の一環として、SRC・図書チーム協賛のファッションショーが開かれました。このファッションショーでは40名近くの生徒モデルが、バレエやその他様々な演出を含む演出で参加しました。ファッションショーはたった8分間のイベントではありましたが、図書チームの時間管理と、キューを出す舞台監督の的確な指示のおかげで非常に順調に運営されました。これら関係者のおかげで、昼休みに行われたこのイベントは、生徒、保護者、教職員すべてが楽しめるものとなりました。

## 体育・美術委員会

体育・美術委員会は、ランチコンサート、美術コンペ、体育関連のイベントの補佐などを行う、SRCの特別委員会です。美術委員会は今期、踊りや歌、詩の暗誦や楽器演奏など多岐に亘る非常に楽しいランチコンサートを実施してきました。また、美術・写真コンテストの開催も予定しており、美術科のArtscapeのための準備も手伝ってきました。体育委員会もまた、クロスカントリーの準備や、校内の試合などの準備を手伝ってきており、校庭や体育館の使用ローテーションの割り振りについての解決策を模索中です。

## 今年度の会計記録

ミドルスクールダンスは会計的にも成功したイベントで、ダンスのためのSRCの物品購入費が35,320円に対し入場料や会場での食品販売で9,930円の利益がありました。この収益は今後World Culture 関連のイベントに使用されます。

今年は、2016年1月から3月にかけてのSRC主催イベント収益は以下の購入に宛てられました。

- SRCダンス物品: 35,320円 (ミドルスクールダンス用)
- SRC ダンス照明: 8,124円
- SRC イベントバナー(大きいステージバナー2つと、SRCダンス及び冬のコンサート用の小さめのバナー2つ): 8,578円
- 生徒用プリンター及び用紙 (SRCプリンターで得た収益はプリンター関連にのみ使用)
- LMC用のボードゲーム: 4,500円

生徒達が学校に貢献するプロジェクト費用のため、上限15,000円まで申請できる生徒基金はまだ申請募集中です。興味のある生徒は是非申請してください！

## 今後予定されているプロジェクト

SRCでは2学期にも様々なプロジェクトを予定しています。まず、3月24日にはSRC主催の第1回、ハイスクールダンスが開催されます。3月25日には毎年恒例のKISTalks が開かれます。これは、共通のテーマ、「tell us your story」に従い、生徒達がセカンダリーの聴衆に対し、自由なスピーチが出来るというものです。また、SRC では学校の理事会と協賛で、"Future Horizons" ロゴコンテストを開催します。また、自転車駐輪場の使用状況の改善を目指して、駐輪場での適切な駐輪方法に関するプロモーション活動を実施予定です。

**セカンダリーSRC**

# クラブ活動のハイライト

## 世界の文化クラブ(エレメンタリー)

この世界は驚きに満ち溢れています!世界の人々は様々な美しい場所に住み、異なる生活を送っています。世界の文化クラブでは、世界中の豊かな文化的多様性について学びます。自分と異なる生活様式を持っている人々の良い面に気付き、理解していきたいです。

今年の世界文化クラブでは、お互いへの「敬意」を目標にしました。世界中の色々な人について学ぶ中で、彼らを理解し、相手を気遣うことが出来るようになることを目指しています。毎週私たちは新しい国について探求を行い、映像や歌、ゲームなどの楽しい活動を通してその国の文化を学びます。

このように素晴らしい生徒達と、私の世界文化への情熱を共有できることを非常に光栄に思います。生徒達の自身を取り巻く世界に対する飽くなき好奇心や知識欲に非常な感銘を受けます。異なる文化的背景を持つ人々に対する生徒達の敬意を見ていると、彼らがいずれ、深い文化的理解を持った良き手本となるであろうことを確信します。

**Axel Norwood**
World Cultures Club Supervisor

## バドミントンクラブ(セカンダリー)

同時に体の運動と楽しさを得られるスポーツを知っていますか?バトミントンクラブです!クラブ内ではバドミントンの遊び方などを教えてくれる優しい先生達がいます。バトミントンとはラケットスポーツで、シャトルコックという物をネットの反対側に打つゲームです。
**Hanna** (G6B)

バトミントンクラブではたくさんのことを学びました。僕の一番大きな進歩はスマッシュです。最初は本当に苦手だったのですが、クラブに参加したおかげで克服することができました。バックハンドはまだ練習中ですが、クラブで色々なことを経験するのを楽しく思っています。
**Satoshi** (G6A)

バドミントンクラブは非常に楽しいけれど、今後以下のような事に挑戦したいと思っています。教師対生徒、シングルスのトーナメント、一対二、や二対三。それと、出来れば他校とのトーナメントもしたいです。こういう事ができるようになった時のために、もっと練習を頑張ろうと思います。
**Daichi** (G6A)

このクラブの良いところは時間がたっぷりあることです。サーブ、バックサイド、ドロップや遠くにうつなど、いろいろなこつなどを学べ、すぐに上手くなれます。ただスキルを習うだけではなく、毎回試合の時間もたくさんあります。そしてその練習おかげでにがてを克服できます。クラブは常に室内なので雨の心配もいりません。このクラブは楽しく練習ができ、誰でも簡単に上手になれます。
**Rei** (G6A)

# Staff 10!

今月のStaff 10!では、2014年の8月にセカンダリースクールの日本語教師として着任した**Florent Debouverie**をご紹介します。

写真家自身が被写体になっているところ。

- **出身地について面白いことを教えてください。**

子供時代の大半をブリュッセルではなくフランスの田舎町で過ごしたので、ブリュッセルが本当の故郷といった感じはあまりしないのですが。長じて私の家族の殆どが住んでいる場所としてのブリュッセルについてお話します。ブリュッセルは私がこれまで住んだ場所の中で一番興味深い場所です。これは純粋に地理的な話ではなく、そこに住む人たちや、この土地の政治的・社会的な背景としての面白さです。ベルギーのオランダ語圏にあるにも関わらず、首都であるこの都市の公用語はフランス語です;このような土地の行政がどれほど大変か、そして特に20世紀中頃からのベルギーへの多くの移住者によってこの都市の言語文化が、どのように豊かになったかご想像いただけるでしょう。この結果、ブリュッセルは(私が数年居住していた)パリのような大都市よりも更に国際的な都市へと発展しました。東京も徐々に国際化が進んでいましたが、ブリュッセルの国際都市としての発展は、私が非常に気に入っていた点です。

- **世界で一番好きな場所はどこですか？**

観光一つとっても、私が行きたい国すべてを訪問できていません.。気に入った国に数年単位で是非住んでみたいのですが! ある国に住むことで、文化、価値基準、住民、生活パターンなど、全く違った価値観を持つことが出来ます。(多分ありえないとは思いますが) 自分が住んでみたい場所すべてに住むことが出来たとしても、どこが一番好きな場所かをお答えするのは難しいと思います。でも、今のところ、東京は住むのに一番好もしい場所です。私がこれまで学んできたことすべてが私をこの場所に導いてくれました。そして、自分が好きなすばらしい職に就くことができています！

- **チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。**

3人います。私が生まれる前の私の両親と、11歳の時の私自身です。前者は今とは全く違う20歳の頃の両親に聞きたい事や話したい事がたくさんあるからです。後者は、11歳の頃にいろいろな困難に直面して苦しんでいた自分に、誰よりも彼のことを知っている自分からアドバイスをしたいからです！

- **何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？**

まだ学校で話していないものや、皆さんにお見せしていないものはあまりありません。いくつか挙げると、5種類の武道を嗜んでおり、そのうち2つで黒帯をいただいています。また、手書きされたものを含む、17世紀の日本文学を多く読んでいます(少なくとも2年前までは! 今では多くを忘れてしまっていますが…)、その他は、きちんと取り組めば、和食やベルギーのデザートなど、かなり上手に料理が出来ます。

- **ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。**

殆どの人たちは私のことを活動的で運動を得意とし、いつも笑っている人間だと思っているでしょう。しかし、10代のころから私を知っている人たちは私がその正反対の人間であることを知っています。出来る限りのらりくらりと過ごし、オタク気質で滅多に笑わない人間としての私です。私を変えた秘訣は自分が好きなことを通して、自分自身を知ることです!

- **あなたにとって一番の宝物は？**

形あるものについて言えば、カメラとスピーカーでしょうか。カメラは数年前に手に入れたものですが、写真を通して、長い間忘れていた自分の芸術的な面を再確認できました。また、スピーカー、Monitor Audio Bronze BX2のセットですが、これは、すでにすばらしい楽曲や映画に新たな側面を与えてくれます。ですから、これより基本的なハードに変えることは難しいです!

- **ご自分を言葉で表現すると？**

「真面目で探究心旺盛な生涯学習者」です。これはかなり気取った面白みのない言葉に聞こえるかもしれませんが、もちろん、上記には、十分まじめに学習した後で精一杯楽しむことも含まれています！

- **もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？**

どちらともいえません。今の自分になるまでに長い年月を費やしてきたので、33歳の代わりに25歳になれるなら、それもすばらしいと思いますが、これまでの経験を通して自分が様々な選択をしてきたからこそ今の自分があるので、人生に近道はないとも思うからです。経験するということは(特に)多くの間違いを経ることだと思いますし、経験に勝る近道や説明はないと思います！

- **自分を高めるために今やっていることは？**

「学ぼうとしていないことや上達したくないことはありますか」という質問のほうがふさわしいかもしれません。人生とは常に進化し続けていくもので、私自身も発展し続けています。より詳細に言うなら、知性の面では、教師としてより向上したいと考えていますし、体力面ではボクシングをして鍛えたいと思っています。

- **ファンに一言お願いします。**

一つだけ:他の誰でもなく、自分自身のファンであれ

# 保健便り

## うがいの話

毎年インフルエンザの季節になると、「うがい」「手洗い」という言葉を何度か耳にすることがあるでしょう。皆さんは正しい「うがい」「手洗い」 してますか？今回は「うがい」の正しいやり方について紹介します。

**■喉から風邪・インフルエンザに感染するメカニズム**

風邪やインフルエンザの原因の80～90%はウイルスで、主に空気中のウイルスが喉の粘膜にある繊毛細胞に付着して増殖し、炎症を起こすことで発症します。ウイルスは増殖しながら細胞を破壊して外へ飛び出し、近くの細胞にまた感染します。

通常、喉の粘膜の繊毛は、1分間に約 1,000回振動し、粘液を外へ送り出すことで、喉から入ったウイルスなどの異物を排除しています。しかし、空気が乾燥すると、粘膜の表面に傷がつき、繊毛の振動が弱くなったり、止まってしまい、ウイルスが侵入しやすくなります。

**■うがいの効果**

うがいというと、「喉に付着したウイルスや菌などの異物を物理的に取り除く」というイメージがありますが、実はそれだけではありません。うがいによる刺激が粘液の分泌や血行を盛んにし、喉が本来持っている防御機能を高めたりします。

**■正しいうがいのやり方**

うがいというと、水やうがい薬を口に含み、上を向いて「ガラガラ」した後、「ペッ」と吐き出す方法を思い浮かべる方が多いのではないでしょうか。確かにこの方法でも効果はありますが、以下のように行った方がより風邪やインフルエンザを予防する効果が期待できます。

1. **口をゆすぐ**
   水やうがい薬を口に含んで「グジュグジュ」「ペッ」を行い、口の中の細菌や汚れなどの食べかすを洗浄します。口の中には、粘膜を破壊する酵素を生成する細菌がいますので、これを洗い流すことも重要です。1度でスッキリしない場合は、何度か口をすすぎましょう。

2. **うがい**
   口を洗浄した後、今度は通常のうがいをします。水やうがい薬を口に含み、役10秒程上を向いて「ガラガラ」「ペッ」をします。うがいをしている時、「オー」と発声すると、口や喉のおくまでしっかり洗浄できます。

3. **最後に水で口をすすぐ**
   うがい薬の中にはpH（ペーハー）が酸性のものがあり、頻繁にうがいをすると、歯の表面のエナメル質が溶けて傷つくことがあります。うがい薬を使用した場合は、最後に口を水ですすぎ、口の中を中和するとよいでしょう。

**■うがいができない時は？**

いくらうがいが重要だからとはいえ、1日中うがいをするのは現実的ではありません。感染力が高いウイルスだと、喉にウイルスが付着してからうがいをするまでの間に増殖してしまうこともあります。

うがいが頻繁にできない時や、感染力の強いウイルスによる風邪やインフルエンザが流行している時は、マメに飲み物を摂り、喉を保湿したり、付着したウイルスを飲み込んでしまうのが効果的です。ウイルスや菌は胃酸に弱いため、飲み込んでも問題ありません。

**Makiko Whittaker**
School Nurse

# KISTサマープログラム2016

## まもなく申し込み受付が始まります！

生徒達の夏休み明けの診断テスト結果が、低下する傾向にあることをご存知でしたか?サマープログラムに参加することで、前年度の学習内容に追いつき、また、次年度の準備を行うことも出来ます。さらには夏休モードからまた学習モードに入るための切り替えにも最適です。サマープログラムは学習を困難に感じている生徒だけでなく、学校の期待値を超え、セカンダリーで上級数学コースに入ることを望む生徒のニーズにも応えています。サマープログラムでは、8月の新学年度最初の週の診断テストで、お子さんが最良の結果を出すことが出来るようサポートいたします。

春休み明けにサマープログラムの申し込み情報を E-Communicationsでお送りしますので、お見逃しないようにお願いいたします。

* 註: 新たにKISTのK1に入学される方は、KISTでの慣らし保育に参加されていませんので、サマープログラムにご参加いただくことは出来ません。K1プラグラムの参加はKIPSから進学されたかたのみに限らせて頂きます。

### セッション 1 (6月13日 – 6月24日)

**新K1 – G1**
**サマーデイキャンプ**
生徒達が遊びを通して様々な英語活動に参加できるプログラムです。生徒達は科学、ダンス、読み聞かせ、スポーツ、図工、ヨガ、フォニックス、遠足、その他色々な活動に参加します！

**新G3 – G6**
**サマーデイキャンプ**
東京近郊の様々な場所に遠足に行く、探求型プログラムです。昨年の夏、生徒達は羽田のJALバックヤードツアー、キューピーのマヨネーズ教室、和船体験クルーズなどの楽しい活動に参加しました。

**新G2 – G5**
**サマーアカデミックプログラム**
**セッション 1**
お子さんの英語・算数のレベルを大きく上げるための集中講座です。診断テストの結果による習熟度別グループで、Key Stage 2のカリキュラムを学習します。

### セッション 2 (7月25日 – 8月5日)

**新K1 – G1**
**サマーアカデミックプログラム**
**セッション 2**
お子さんの英語・算数のレベルを大きく上げるための集中講座です。次年度の準備のため、Key Stage 1のカリキュラムを学習します。

**新G2 – G12**
**サマーアカデミックプログラム**
**セッション 2**
お子さんの英語・算数のレベルを大きく上げ、診断テストの準備を行うことが出来る集中講座です。生徒は英語あるいは算数・数学、または2教科を受講することが出来ます。診断テストの結果による習熟度別グループでKey Stage 2, Key Stage 3 または IGCSE のカリキュラムを学習します。

セメスター1及び2のKIST/KIPS LEAPの様子をいくつかご紹介いたします。

G1の生徒達がMs Millicanとのguided reading sessionに参加しているところ。

K3の生徒達がMs Wangとお話の時系列の大切さについて学んでいるところ。

Mr NorwoodがG2のライティング編集を手伝っているところ。

KIPSの科学リテラシー参加生徒が、異なる性質の物体の反応について予測しているところ。

KIPSダンスクラスの生徒達がKIPS LEAPコンサートのための振り付けを練習しているところ。

KIPSの音楽算数クラスの生徒達が音符や休符を学ぶために神経衰弱ゲームをしているところ。

# K. International School

# Spring University Fair 2016

**Date: Monday, March 21, 2016**

**Time: 2pm - 4pm**

**Venue: KIST Gym**

Bond University
Doshisha University
Griffith University
Hosei University
International Christian University
James Cook University
Juntendo University
Keio University
Kyushu University
Lakeland College Japan Campus
Musashino University
Nagoya University
Okayama University
Osaka University
Ristumeikan Asia Pacific University
Sophia University
St. Thomas University
Temple University, Japan Campus
The University of Tokyo
Tokyo International University
University of Kent
University of Tsukuba
Vanderbilt University
Waseda University
Yamanashi Gakuin University

KIST University Guidance Office
Mrs. Keiko Okude keiko.okude@kist.ed.jp